

教室(診療科)紹介 (95)

Create and Share

内科学講座糖尿病・代謝・ 内分泌学分野 (大森)

教授：弘世貴久
講師：内野 泰 (医局長)
熊代尚記

当科は旧内科学第1講座内分泌研究室と旧第2講座糖尿病研究室が教室再編成により合流して生まれた教室である。平成24年4月1日より、弘世が順天堂大学から教授として着任した。平成26年9月現在、教授1名(弘世貴久)、講師2名(内野 泰、熊代尚記)、助教4名(安藤恭代、白井州樹、宮城匡彦、伊賀 涼)、レジデント8名(金澤 憲、田崎麻衣、八木智子、布施友紀恵、吉川美久美、遠藤康弘、金口桃子、二宮菜穂子)、准修練医2名(正井なつ実、小林

結香)、大学院生2名(鳴山文華、小田健三郎)、研究生1名(池原佳代子)の総勢20名のスタッフにより運営されている。その他2名が出向中(川上理華)、留学中(須江麻里子)である。

診療内容の特徴

当科の特徴として糖尿病分野ではまず「外来完結型」の治療の実践がある。重症糖尿病の治療はこれまで入院して高度に管理された食事、運動療法を実践する中できめ細かいインスリン治療を行うというのが常識であり、当科でも従前どおりこれに準じた治療も行っている。しかし、最も早急な治療開始を必要とする働き盛りの中壮年の患者は入院の時間を取ることができない場合が多く、その結果、最も避けねばならない治療脱落につながってしまう。弘世は外来インスリン導入のわが国におけるオピニオンリーダーとしてこの方法の普及に努めてきた。当科においても入院不可能な患者へのインスリン導入システムを実施している。糖尿病教育にも積極的に取り組んでおり、糖尿病看護認定看護師(現在3名在籍)、糖尿病療養指導士などから構成される“チーム医療”により糖尿病教室の開催や年2回の市民公開講座を行っている。また、下垂体、副腎、甲状腺、および副甲状腺などの内分泌疾患についても4名の内分泌専門医の指導のもと最新の情報に基づいた正確な診断と治療を行っている。



前列左から 宮城助教、安藤助教、弘世教授、熊代講師、伊賀助教
後列左から 八木医師、田崎医師、金口医師、小林医師、遠藤医師、鳴山医師、
金澤医師、内野講師(医局長)、白井助教

研究・教育活動

当科では「大学」と名のつく組織に所属している以上、診療科といえども全ての構成員が研究を行うことを必須と考えている。若手医師が臨床・基礎を問わず研究を行うことは「良き臨床医」となるために不可欠な過程であり、研究そのものが医療人の教育過程とも考えている。臨床研究においては新規糖尿病治療法の開発(新薬の開発ではない)と治療スキムの策定が主なテーマであり、実施する研究はすべて一流英文雑誌に採用されることを目標としている。わが国においては正しい手順で行う治療介入研究がまだまだ立ち遅れているが、当科ではこれを実践し、この分野ではわが国をリードする存在である。信ずる研究テーマに対し科学的かつ統計学的に正しい研究実施計画を立案し、それを証明する。当科からのデータは多くの医療現場で信頼され、実際に多くの診療医に実地で採用されている。基礎研究は平成26年1月より熊代講師の指導のもと睡眠とインスリン抵抗性、良性脂肪肝のメカニズム解明などをテーマとしてスタートした。文部科学省科学研究費補助金(若手

研究A)や多くの競争的研究費を獲得し、すでに興味深いデータが集積されつつある。

医療連携への取り組み

まず顔の見える医療連携を実践するために城南地区3医師会(蒲田、大森、田園調布)との医療研究会を開催している。また医療連携シートを用いた患者情報の確実なキャッチボール、さらにこれまで行われていなかった1週間の教育入院プログラム「糖尿病ドック」も医療連携の中でより活用しやすい形で運用開始した。

おわりに

当科は弘世が教授として就任後まだ2年半と歴史は浅く、また教室員は半数がレジデント(後期研修医)で構成される平均年齢の極めて若い教室である。この若いエネルギーを核に「信頼される」、そして「発信する」内科学教室として教室員一同、一丸となって努力する所存である。多くの先生方のご協力、ご支援をこの場を借りてお願いしたい。

(教授：弘世貴久)